

外来哺乳類の在来生態系への影響評価と管理手法

自然・環境科学研究所 栗山 武夫



キーワード

アライグマ、ヌートリア、捕獲、GIS

研究概要

外来種は、農作物被害、病原体の媒介、生態系の攪乱等さまざまな問題を引き起こしています。特に、食物連鎖の上位に位置する外来の哺乳類アライグマは、捕食者として在来生態系に深刻な影響を与えているといわれています。しかし、どの程度在来生態系に影響があるのかは実は定量的に明らかにはされていません。里山生態系において食物連鎖の中位に存在し、農業害虫などを餌として食べてくれる両生類を対象に、アライグマからの影響評価を行っています。またアライグマを含めた外来哺乳類の効率的な捕獲手法の開発にも取り組んでいます。



アピールポイント

兵庫県森林動物センターの研究員を兼任しています。外来哺乳類以外にも、イノシシ・シカ・ツキノワグマといった在来哺乳類と共生するための基礎的な科学データの蓄積を日々行っています。

応用分野

- ・環境アセスメント
- ・生態系サービスの定量評価